

## 第7回「確かな学力育成プラン」検討委員会 議事録

◆日 時 平成29年5月17日（水曜日） 午後3時30分～午後5時30分

◆場 所 仙台市役所上杉分庁舎 10階 教育局第2会議室

◆出席委員

氏名（敬称略）	所属 職名	備考
荒井 崇	東北大学大学院教授	（欠席）
板垣 信哉	宮城教育大学特任教授	委員長
大泉 晶子	前仙台市PTA協議会監事	
大草 芳江	（有）FIELD AND NETWORK 取締役	
亀倉 靖宏	仙台市立上杉山中学校長	
今野 和賀子	東北福祉大学准教授 （前仙台市立錦ヶ丘小学校長）	副委員長（欠席）
佐々木 守世	（株）ホームセレクト代表取締役	
針生 真由美	仙台市PTA協議会副会長	
宮本 真由巳	住吉台中学校区学校支援地域本部SV	
杉山 勝真	仙台市教育委員会学校教育部長	
佐藤 淳一	仙台市教育委員会学校教育部参事	
猪股 亮文	仙台市教育委員会教育指導課長	
三塚 修	仙台市教育センター所長	（欠席）
春日 文隆	仙台市教育委員会学びの連携推進室長	

◆傍 聴 3名

◆報道関係 なし

◆配布資料

- ・次第 ・検討委員会会議概要 ・確かな学力育成プラン2018（平成29年5月17日版）
- ・教育振興基本計画との関連 ・平成28年度仙台市学力向上に関する調査・実践報告書
- ・第2期教育振興基本計画 ・第2期教育振興基本計画概要版 ・参考資料

◆会議の概要

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
  - ・（委員長）8月にパブリックコメントを控えている。完成を目指していきたい。
- 3 報告（事務局）
  - （1）これまでの会議の概要について
    - ・第6回検討委員会までの会議概要を配付した。ゴシック体になっている部分はプランに盛り込んでいるもの。各回の記録について、修正が必要な場合はメール等で連絡をいただきたい。確認が終わり次第、公表となる。
  - （2）今後のスケジュールについて
    - ・今年度、全体で5回の検討委員会を開催する。7月、8月に検討し、8月末からパブリックコメントになる。10月中に修正案、11月に最終案を策定する。
- 4 協議事項（進行：委員長）
 

新プランの中間案について（前回資料と変更した点を中心に議論）

  - （1）目次の構成（改訂のポイント 第1章に配置）
  - （2）第1章2改訂の主なポイント（(5) 仙台自分づくり教育 新設：P.4）
    - ・（春日委員）目次の構成を変更し、新プランの目玉となるものを前の方に持ってきて、初めて見たときでも、すぐ分かるようにした。主な改訂のポイントは、目次に下線で示した。P.1の学力の在り方については、図2のような形で示す。P.2の（2）で特に算数が落ちているため、主に小学校中学年の算数について施策を行うことを示した。（3）には、これまでの小中連携と合わせて、幼児

期からの切れ目のない教育の推進についても記載している。P.3の(4)に書き込みを追加した。放課後、長期休業中における学習支援については、教師の多忙化のこともあり、サポートしたいことを記載した。P.4の仙台自分づくり教育の充実は今追加したものである。第2期仙台市教育振興基本計画との整合性を見るため、学力プランと合わせた(別紙資料参照)。ミッション4の社会的・職業的自立の資質・能力の育成というところで、職場体験の活動等で応用力の育成を図ることが議論されている。今まで学校教育というと、学校の中でどのような教育をして、学校を卒業した後で、学校で教育したことがどのように活かされているかということについては、弱い部分がある。平成28年12月21日に出された中教審答申では、子供たちを未来の担い手として位置付け、学校を未来の社会に向けた準備段階として捉えることを指摘している。学校と社会の接続を意識する、キャリア教育の要請が出ていることが分かる。3月に公表された学習指導要領の中でも、総則の中で職業的自立に向けて、必要な基盤となる資質・能力を育むということでキャリア教育の充実を図るとされている、というわけでこの(5)を付け足した。

学習意欲の科学研究に関するプロジェクト(以下、学習意欲PJ)の中で、自分づくり教育で育む、夢や目標を持っていること、将来の可能性を広げるために勉強を頑張ることなどが、学力について高い相関関係があることが分かっている。その点からも学力向上を図るためにも、自分づくり教育を充実していくことが有効だと考えた。

協議の中でも話し合われていたが、アクティブ・ラーニング(以下、AL)をしようとしても、他者に関心がない状態であるとか、人間関係調整力がなくて、グループ活動を取り入れてもなかなかグループ活動ができないということも考えられることから、自分づくり教育の中のたく生き(たくましく生きる力育成プログラム)のことも充実を図っていききたいことから、ここに(5)を入れた。ご意見を伺いたい。

- ・(亀倉委員)初めて見る人も意識して、分かりやすくまとめられている。言葉の説明も丁寧。
- ・(針生委員)小中連携の他に、幼稚園と保育所との連携のことも入れて、縦のつながりが強くなった。
- ・(猪股委員)資料3の教育振興基本計画と学力育成プランの関連が明確になっている。新しい指導要領も横目に見ながら育成プランに盛り込めるところ、関連させるところを明記しようとしているところがよい。
- ・(大泉委員)話し合ったことが活かされている。社会との接続、勉強だけでなく、生きる力をしっかりと身に付けていくような内容になっていて、希望が持てる。
- ・(佐々木委員)頭に入ってくる内容になっている。
- ・(宮本委員)社会的自立・職業的自立に必要な態度や能力を育成するということ、ALをするためにたく生きを生かしているところなど、相互の関連を出している。(目次のページについて質問)
- ・(大草委員)これまでの議論が盛り込まれている。仙台自分づくり教育は仙台らしい教育の方向だと思う。
- ・(春日委員)補足であるが、仙台自分づくり教育は現行プランのEの「家族や地域の教育環境の充実」に含まれていたが、今回はDとして特出ししている。
- ・(春日委員)(3)に入る前に、自分づくり教育を推進していて、児童生徒がどのように変容しているか、仙台市生活・学習状況調査の結果から(別紙参考資料)、「自分が世の中に役に立てるように、勉強を頑張る」というところが、平成28年度一番割合が高くなっている。自分づくり教育によって、子供たちが、自分が世の中の役に立てるように勉強を頑張る意識が高くなっている。この意識が高まると学力はどうなるか、資料おもての2番の「目標意識と学力の関係」を調べた学習意欲PJの結果を見ると、目標意識が高い子供は学力も高くなっている。自分づくり教育を推進することによって目標意識が高まり、学力につながることが期待される。

(3) 第2章1 社会の状況 ((3) 子供の貧困と学力 新設 : P.8)

- ・(春日委員) P.8 子供の貧困と学力について、避けて通れない。NPO 法人アスイクを利用した、中学生の無料の塾を実施しているところだが、教育局としても何かできないか考えていきたい。しかし、教育局として、貧困に限定することは難しい。そういった子供たちを拾えるような施策を盛り込んだのが P.8。

補足すると、子供未来局は生活保護世帯に対して、中学生の塾をやっている、そのような制度を使って募集をかけている。割合で言うと1割部分をカバーしている状況。教育局として貧困層だけ、というわけにはいかないの、そういった子供たちもカバーできる手立てを考えたい。そういった家庭もフォローできる仕組みを作っていきたい。

- ・(委員長) グラフで見ると厳しい(参考資料)。
- ・(春日委員) 職場体験後の中学生に意識調査をすると、「将来のために勉強をがんばる」の項目の数値が上がる。仙台は小売り業者が中心で、職業に偏りはある。新しい職種の開拓は必要。先週、仙台に山形から校外学習に来て、職場体験をしていた。仙台は職場体験をするにはうってつけの環境である。

中学生の民泊学習で、仙台から秋田、山形にも行っている。

(4) 第2章 (2 学習指導要領の改訂 新設 : P.9)

- ・(春日委員) 前回報告したものを P.9~10 の真ん中にまとめた。今回の改訂の基本的な考え方として、未来の社会に向けた準備段階として学校が位置付けられ、そのために(1) キャリア教育が行われている。(2) 社会に開かれた教育課程では、今後は教育課程を地域の方にも参画して考えてもらうことになっている。(3) 教科横断的な学習の充実、その充実を図るためには AL で主体的な学習にしていくことが必要。また、(2)、(3) が有効に行われているか、(4) カリキュラム・マネジメントの視点が大切だということを記載している。最後の段落では、(1) ~ (4) は一連の関連があることも記載した。

前回説明したものを文章化したので、意見をいただきながら整理したい。

(5) 第3章 (3 生活習慣・学習習慣、学習意欲等の課題 新設 : P.22)

- ・(春日委員) P.22 が新設。P.22 までが仙台市標準学力検査、全国学力学習状況調査について丁寧に記載したもの。バランスを見たときに、生活・学習の様子の意識調査の部分が不足していたので、P.22 から子供たちの生活・学習習慣、学習意欲を見たときの課題についてまとめた。仙台市の生活・学習状況調査では、項目として①学校生活②授業③学習意欲④家庭生活⑤自由時間⑥家庭学習等⑦社会・地域とのかかわり⑧道徳心・挑戦・夢⑨自分づくりの、9 領域を取り上げ 74 項目となっている。結果は、平成 28 年度仙台市学力向上に関する調査・実践報告書の P.317 からすべての項目についてグラフ化し、課題をピックアップしている。また、全国でやっている質問項目の結果も示している。さらに、P.47 学校質問紙調査の結果も掲載し、併せてまとめている。生活状況、学習状況、学習意欲等の課題について P.22~にまとめた。P.24 を見ていただきたい。意識調査をして課題となっている部分として、朝食習慣がある。朝食習慣は全国平均を上回っているが、中 2、中 3 の欠食率が多い。育ち盛りを考えると改善が必要と考える。また、22 時以降に就寝する子供は、中 3 は全国比 -3.9 ポイントでよいが、小 6 が +5.7 ポイントと高く、小学校段階での規律ある生活が求められる。「学校の決まりを守っているか」というところでは、小 6 が -0.3 ポイント、中 3 は +0.4 ポイント。小 6 は、学校質問紙で見ると、「授業中の私話は少なく、落ち着いているか」という項目が、全国より下がっており、小学校は学級内の落ち着いた状況が必要と思われる。中 3 は 1 時間以上の家庭学習が全国より上回っているが、小 6 は下回っていて課題となっている。自分が世の中の役に立てるように勉強を頑張る、という

ところが、全ての学年で数値が上がってきており、よい傾向である。意欲に関する部分で算数・数学が好きかというところでは全国比で小学校はマイナスを示している。中学校はわずかに上回っている。算数・数学の意欲の面で課題が見られている。また、算数・数学で学習したことが社会に役立つかというところもマイナスになっている。意欲や学ぶ価値についても高める取組が必要、というところをまとめた。生活習慣や学習習慣の向上は、学校だけでは難しい。Bの領域で掲げている家庭・地域との連携が必要である。

- ・(大泉委員) 生活習慣になると各家庭になるので難しい。
- ・(春日委員) 学校と連携しながら個別に対応することが必要になってくると思われる。
- ・(佐々木委員) P.23 のスマホを使いながら勉強していることについて、詳しく教えてほしい。
- ・(春日委員) スマホを操作しながら勉強していることについて細かく見た。音楽を聴きながら勉強することは分かるが、動画を見ながら勉強している現状が分かった。P.343 にリーフレットの内容を掲載している。スマホを使いながら勉強している現状が分かり、使用するアプリが多いほど学力が下がる傾向にある。使用するアプリの種類として、LINE、動画、ゲーム、音楽、どれも使っていない子供は、平均偏差値が高いことが分かった。今後の大きな課題と感じている。学校、家庭と連携していかなければならない。動画を見ながら、勉強しているということはおそらく集中していないと思う。
- ・(佐々木委員) 音楽の中に動画も含まれていると思うが、音楽を耳だけで聴いている人も多いと思う。朝食は運動系、文化系ということもあるので、表現の仕方等の検討が必要と思う。
- ・(春日委員) 朝食と学力の関係を調べ、3年間朝食を食べた子供と、3年間のうち2年間は食べていた子供、3年間食べていない子供を比べたところ、平均偏差値を見ると明らかにこういう形で出ている。(P.344) また、食べなかった子供が食べ始めると成績が上がるかどうかを追跡調査して、こういう結果になった。今までは、朝食を食べることが生活規律につながるの、生活規律がよくなれば(学力が)上がる、と言われていた。今回は、食べれば上がることが分かった。
- ・(宮本委員) 仙台市の子供たちは切り替えが下手なのかなと思った。動画を見るなら動画を見る、勉強するなら勉強するというふうに切り替えができないのか。「授業中の私語が少なく落ち着いている」の項目で小6は全国値-2.3ポイント。想像でしかないが、大きい街の子供は受験するから大人なのか。クラスもそういう雰囲気になる、と聞いたことがある。小6となったとき、中学校に向けた緊張感があれば、意識が変わってくるのでは。受験勉強のために睡眠時間を減らすことはいい事とは思わないが、それに代わるような中学校に向けての大きな目標を持たせると意識もかわってくるのではないかな。
- ・(針生委員) 中2のモチベーションが下がっているのが気になる。本来であれば、中2は部活動の主となり、もっとモチベーションが上がってもいい時期なのかなと思うのだが。自己肯定感イコール学力と通じるものがあるのだろうが、中2の一番大事な時に、下がっているのは気になる。思春期も重なって心境の変化もあると思うが、吸い上げて次のステップになって、子供も意欲的になるのか。すっとんと落ちているのが、親としても気になる。自己肯定感も上げながら、学力も。中学校が一番伸び盛りだと思うので、ここにステップとして何か取組があるといいと思う。
- ・(春日委員) 調査をするのが4月なので、中1は意識が高い。中2は1年間を終えた後になる。
- ・(佐藤委員) 中1の「さあやるぞ」という意識は大事にしたい。中2のギャップ、下がり具合を抑えるのが課題。連動する形で不登校の数が上がってくる。学習意欲とも関わる大事なポイントだと思う。
- ・(針生委員) 全てがつながってくる。学力にしても、自己肯定感にしても。中2は部活も主となって、自分たちの力を発揮できる大事な時期。

- ・(亀倉委員) 中 1 の中間考査が終わったところから、学ぶつらさを感じるようになる。勉強で悩み始める。途端に行き渋りが始まるようになる。うちの学校の子供たちの話になるが、食事をちゃんと食べている。給食の残食率も少ない。もう少し調べてみたい。
- ・(佐藤委員) 食べれば上がる、やめると下がるというのが明らかになっている。脳科学の中でも糖分の摂取が関係している、ということもあるので、このプロジェクトの内容をうまく活用していきたい。我々のアピールの弱さもあるので、もっと発信していきたい。そして、学力につなげていきたい。
- ・(佐々木委員) 家庭的なところになっているので、発信するのは難しいか。
- ・(春日委員) 学校によっては、PTA 総会などで保護者に呼び掛けることもできる。
- ・(佐々木委員) もっと大きく発信していい。比較的实践しやすそう。最初の中間考査で挫折とかになっても、勉強のレベルが上がって難しいと感じるのだろうか。
- ・(亀倉委員) 点数や順位が出ることに敏感になる子供たちもいる。いろんなプレッシャーがかかる時期でもある。学校で頑張るのは学習だけど、学習以外でも力を発揮できることがたくさんあることもメッセージとして出している。部活だったり、学校の行事だったり、いろいろな刺激を与えている。
- ・(委員長) 中 2 は先が少し見えてくる。将来的なことも考えるようになる。ある県では、かなり早い段階(小中)で、大学進学をあきらめる生徒が多いと聞いている。中 2 の段階ですと、将来の具体的な目標の模索、勉学の苦労、努力、などの多くの要因が複雑に絡んでいる発達・成長段階でもありますね。
- ・(春日委員) 意欲の部分なので、中 2 で下がってしまうのは残念。自分づくり、職場体験学習等での成功体験や失敗体験も聞きながら、将来の目標を見ながら、新しい意欲が、勉強する目的が見えるはずいぶん変わってくると思うので、その辺の工夫もぜひしたいと思う。
- ・(大草委員) 目的意識、意欲が学力と相関関係にあることが分かった。目的意識と意欲に必要なのは、遠い将来役に立つという目標だけではなくて、目の前のやっていることの意味が理解できることの両輪が大事だと思う。そこで気になるのは、数学の勉強は好きですか、国語の勉強は好きですか、という項目でポジティブな回答が低いことだ。社会に出た後、実は数学や国語が認識力や表現力に直結していることを私自身も痛感しているところだが、小中学生の頃は何のためにやっているのか実感がわきづらいことが、このような結果にあらわれているのかなと思う。一方、これからの時代は数学やプログラミング言語が世界の共通言語になると言われているが、プログラミングはもともと自分の実現したい目的を達成するために数学を使うので、何のためにという目的意識がわかりやすい。このような新しい教育の導入をきっかけに、自分がやっていることが一步一步未来につながっている実感をもてるようになることを期待している。
- ・(佐々木委員) 好きか嫌いかということだけじゃなくて、役に立つかどうかという質問があれば、別の角度から見るができると思う。
- ・(春日委員) (実践報告書) P.36 の 65 番, 77 番, 中学校は P.39 と P.40 の 65 番, 77 番。下がっているのは課題。
- ・(佐々木委員) 思っていたよりは高い。
- ・(佐藤委員) 学校で学ぶ学校知と生活の中で使う生活知のずれがあると言われていて、本来学習指導要領は、生きていくために必要なことや社会の中で必要なものとか、そういったトピックをどう系統立てて取り出して作っていくかというもので、必要なこととして毎日の授業があるのだが、そういう意識を教師が持つことと、そういう意識で子供たちに、この学びは何につながっているのかということや常に意識付けを持って指導に当たっていかなければならない。どうしても試験のためという目的が出てしまって、でもそれはあってはいけないことであって、どの教科でも

学ぶ意味があつて、そういう意識を教師が持つて、子供に伝えていくことを我々もアピールしていかないといけないと思う。

- ・(佐々木委員) 例えば、ゲストティーチャーで授業以外に将来の夢について話す人はいると思うけれど、数学が社会に出たときに役に立つということを教える人はいるか。というのも、自分自身、数学が社会に出て役に立っているの。
- ・(春日委員) 教育センターの理科の授業で、土木関係の会社の方が来て、地層の学習をして、将来、建築に生かせるという話をしたら、子供たちの食いつきが違ったということがある。そういう取組もしている。
- ・(佐藤委員) 子供たちの前でそういう話をする人がいると大きいかもしれない。

(6) 第4章【各施策における事業のねらい】 新設：P.26)

- ・(春日委員) 各事業のねらいを一覧にした。

(7) 第4章(2「学習意欲プロジェクト」(学習意欲PJ)から見た学力向上の方策 新設：P.28)

- ・(春日委員) 学習意欲PJにおいて、22年度まで分かっていることについてまとめた。生活・学習の実態に関わる部分で、学習意欲PJの知見が事業に生かされると考え、改めて盛り込んだ。例えばP.28の(2)の①、22年度に明らかになったこととして、学習意欲との関係で、低学年は夢や憧れも学習の動機となること、高学年以降は、将来の可能性を広げるために勉強を頑張るという意欲を持つことによって学習成績が上がってきていることが分かっている。子供たちの学習状況調査と、学力との相関から分かったことがここに書いており、年度ごとに明らかになったことを挙げている。さらに、それらがA～Fの施策のどこにあたるか、ということを表した。例えば22年度のまとめとしては、P.29の丸の3つ目にある、「低学年では憧れや夢を持たせると効果的」で、高学年以降では、「将来や進路に関する具体的な知識・技能の指導が有効」ということが分かっているので、(D)の「仙台自分づくり教育の充実」が必要、ということで、分かったことと施策を結び付けてまとめた。23年度で分かったことは、「バランスのとれた食事や睡眠時間」があり、学力との相関関係があること。したがって、(E)「家庭や地域の教育環境の充実」が必要ということになる。また、その下、家庭でのコミュニケーションが有効だということで、(E)「家庭や地域の教育環境」がやっぱり必要だ、というように年度ごとに分かったことと施策を結び付けてまとめている。P.30の25年度では、「スマホの使用時間と学力との関係」から、使用時間を考えることが必要だということで、ここでも「家庭や地域の連携」について記載した。P.32、課題として自己肯定感について記載した。自己肯定感が低い傾向にあり、一部の学年を除き、震災前までの数値まで回復していない状況で、お互いを認め合う学級づくり、よさや頑張りを認め合う、自己有用感を高めながら行うことが有効であること、併せて、前回、大草委員から指摘のあった他者の承認がなくても自分に自信をもつことができる働き掛けも重要としている。ただ、事務局でも、どの部分に記載すればよいか検討することが出されているので、ご意見をいただきたい。
- ・(佐藤委員) 今年度の(市標準学力検査、生活・学習状況調査)結果と全国の(学力・学習状況調査)結果が出るので、もう一つ新しいデータ、考察が入る。学習意欲PJでどれだけ新しいものが入れ込めるかで、表現も変わってくる。
- ・(委員長) 4章の2として独立させるか。
- ・(春日委員) 3章の3とかぶるので、意見をいただきたい。
- ・(委員長) 施策の基盤と方向性としてよいのではないか。データ、結果を基盤として。パブリックコメントでのご意見などを踏まえ、検討することでもよろしいかと考えます。
- ・(大草委員) 学習意欲PJと施策の関連付けはいいが、どこに載せるのかで意味合いが変わってくる。第3章は施策の方向性となるデータ分析の掲載、第4章はそれをもとにしたもので、そこに学習意

欲 PJ の結果を入れると、また施策の根拠となるデータに戻ってしまうのではないか。施策と根拠となるデータ分析は章を分けたほうがよいのではないか。

- ・(委員長) 検討する方向で。

(8) その他

- ・(大泉委員) より具体的、分かりやすくなっている。朝食とスマホについては自分の息子にあてはまる。これからはいかにスマホやタブレットと関わっていくかが大事。スマホを使いながら勉強をすると、学力が下がるということを、子供たちにどういうふうに落とし込むとよいのか、と思った。
- ・(亀倉委員) 事業のねらいが押さえられている。どれも大事だが、各学校やることがいっぱいある。実態に応じて軽重つけるところが試される。
- ・(佐々木委員) スマホの話があったが、SNS はコミュニケーションツールにもなっていると思う。昔と今が違うのは、コミュニケーションツールが将来役に立つものであるという違いが大きい。コミュニケーションの転換期でもあるかと思う。
- ・(針生委員) 大事なことをいろいろな角度で捉えようとしている。学校でできないことを地域、家庭で補っていくという姿勢が大事だと感じている。今は、友達同士ですぐに話すことができ、スピードもある。いかにコミュニケーションを大切に養っていくかが課題だと思う。見えないところでいろいろなことが起きていて、分かり合おうとする親の気持ちもある。いろいろな角度で子供たちを見守っていけるといい。
- ・(宮本委員) 家庭や地域を巻き込んでということが重要になってくると思う。家庭や地域にプランの実践をどう浸透させていくかが大事。朝食やスマホのことについても学校だけではどうしようもない、そこで家庭や地域ということになる。そこで、どう浸透していくかということ。
- ・(大草委員) プランが客観的なデータをもってまとめられていて、説得力があり、よいと思う。この取組は学校の先生だけではなく、地域のいろいろな方を巻き込みながら行っていくものなので、説得力が必要だからだ。さらにあるとよいと思ったのは、このプランは仙台市の教育全体のうち、どの部分に位置付けられているかが、シンプルに一目で分かるようなものが最初にあるとよい。
- ・(委員長) 学習指導要領の改訂等、大きな課題を示された中でもあり、難しい時期の育成プラン。ご協力をお願いしたい。

5 事務連絡(事務局)

- ・次回の連絡(次回:第8回 平成29年7月3日(水)午後3時30分～ 教育局第1会議室)

6 閉会

平成29年7月3日

署名委員

大泉 晶子